

能登香の里

あわい村 No. 21

発行 平成27年 1月15日
粟井地区・村創りの会
事務所 (たぬき茶屋)
76-1373
AWAIMURA.COM

絆とやすらぎの里粟井村

「とんど」集会

【一月十四日】



粟井小学校児童会主催の「とんど集会」が開催されました。「粟井地区村創りの会・粟井福祉ボランティアの会」が後援で協力しました。何年前までだったのでしょうか。こんな形でしていたのは、大勢の人の記憶に残っています。なぜやめたのでしょうか。私たちは粟井の地で、四季おりおりに行事を行いながら、無病息災を祈願したり、豊作を祈ったりして、何かを敬いながら、生活してきました。今の世の中の尺度では測れない多くの事に意味を感じてきました。合理性と効率性とか科学的とかでは説明できない自然のつぎあい方がありました。小学校児童会の代表委員会、「とんど集会」の提案理由は、
◎粟井小学校最後の年に、以前行われていた字がうまくなる伝統行事を復活させたいから。
素晴らしい子ども達なりの提案理由です。
(大勢の方に協力頂き感謝します。)

粟井地区村創りの会 「ふるさとがえり」上映会

【十二月十三日】



学校統合を控えた今だからこそ見て欲しかった映画「ふるさとがえり」。多くの人に参加して頂きました。本日は、映画鑑賞の後みんなで意見交換をするのが良かったのですが、行事が控えていて出来なかったのが残念でした。最寄りで見え交換して欲しいと思います。これを契機に今後は多くの人と「粟井村」のあるべき姿について意見交換していきたいものです。
津山市に合併した旧阿波村は、昨年小学校も加茂小に統合されました。合併後10年を経過した昨年、「あば村宣言」をし、ホームページを立ち上げ、ガソリンスタンドなども自らの力で復活させ、若い人を呼び込み、再び元気になるうとしています。身近にあるいろいろな取り組みを参考に、真剣に粟井村の将来を切り開かなくてはなりません。3月19日の「藻谷浩介」氏の講演は、きつと示唆に富んだものになるでしょう。

共生対流事業

◆中四農政局・現地視察 【十一月十五日】

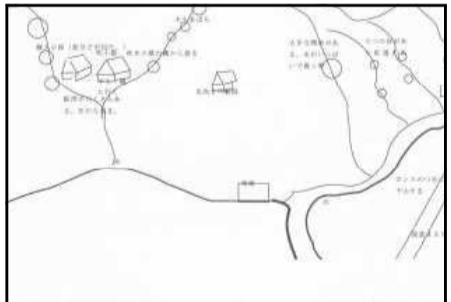
都市農村共生対流総合対策交付金事業2年目の現状確認に、北浦さんと、農村振興課長補佐・春名秀樹さん、同じく景山茂樹さんの3人が来られました。春名さんは宮原に実家があつたそう、小学校低学年を吉野小学校で過ごされたことがあり、話も弾みました。2年目の取り組みもとても順調で利用者数、収益も伸びており粟井地区の取り組みを大いに評価してくださいました。「この事業の恩恵は、確実に広がっています。」
次回は、何を目的に、どのような事業に取り組みむか。一日も早く粟井にとって最善の事業を見つけ、次に進まなくてはなりません。

関西方面に、営業に行ってきました。【十二月十日】

美作市商工観光課と一緒に、「能登香の里小房」の営業活動をしてきました。能登香の家の体験プログラムを中心に説明し、田舎と人情の良さをPRしてきました。訪問先は、次の3力所でした。
◎箕面自由学園(豊中市)阿部校長、田中事務部長
◎岡山県大阪事務所(大阪市北区)脇本所長、奥次長
◎日本教育旅行社(京都市下京区)杉営業部リーダー
皆さん、熱心に聞いてくださり、元気を頂いて帰ってきました。

作州吉野郡粟井中村銀山・探訪

【十二月二十七日】



粟井マップ作成のため、「作州吉野郡粟井中村銀山」跡を歩いてみた。事前に原利保さん(鷺巣)より説明を受けた。また、津山市郷土資料館にある、津山藩家老矢吹家の銀山にまつわる資料も頂いた。
天保九年、將軍家の特使として諏訪氏、竹中氏、石川氏が、粟井中村銀山を視察巡見した時のものだ。生野銀山、粟井中村銀山、石見銀山と繋がっていく天領であった。

北向き不動院を中心に、それぞれ6-7の谷筋に坑道が残っている。規模が小さいのは、埋蔵量が少なかつたためか。今では水を蓄えているものもあるが、確認できただけでも10ちかくあつた。
また、吹小屋や移人小屋の跡も確認できた。
上の写真は、右が手書きの地図。中が、到着点。カンスのつるに出ている。少し上には砂防ダムがあり、その上はいくつかの谷筋がある。左は、出発点、登り初めてすぐのところ。左右の分岐点があり、鉱滓がたくさん転がっている。分岐点の上には、吹小屋、移人小屋の跡地がある。平らですぐ分かる。下の写真は、それぞれの谷筋にある坑道の一部である。中には、奥が確認できないほど深く空いているものもある。規模が大きければ、世界遺産だったかも知れない。

左は上から、吹小屋跡、移人小屋跡である。下2枚は、最後の山頂からの絶景である。雪の那岐山、滝山、爪ヶ城、目を転じれば小房山、堂屋敷、後山など疲れを吹き飛ばす絶景が広がる。粟井オールドでは外せないコースとなる。「横地さん達の仲間、湯郷の堀さんは、鉱石の専門家である。お父さんは、なんでも鑑定団」の鉱石の鑑定士でもある。次回は「一緒に探訪したい。」

